

第Ⅳ部門

中心商業地区における「つなぎ空間」の連続性

大阪工業大学工学部 学生員 ○寺本祐己

大阪工業大学工学部 学生員 谷 圭一

大阪工業大学工学部 正会員 田中一成

1. はじめに

現在、高度成長期に比べ都市の成長は止まりつつある。高度成長期には、街の規模拡大のために建築物などは必要最小限の生活空間をデザインしなければならない時代が続いた。しかし、現在では再開発事業等が進み、都市部での快適なゆとりある外部空間を生み出す傾向がある。しかし、ただ快適な空間をつくるのではなく同時に地域の特徴を活かした空間をつくることが求められる。

そこで私たちは研究をするにあたって中心商業地区における空地に目をつけた。昔ながらの街並みと近代的な街並みの融合する都市部では、土地の活用は様々であり、また都市部における土地の活用は今後の課題、社会的問題でもあり、有効かつ効率的に活用することが求められている。

2. 研究の目的と方法

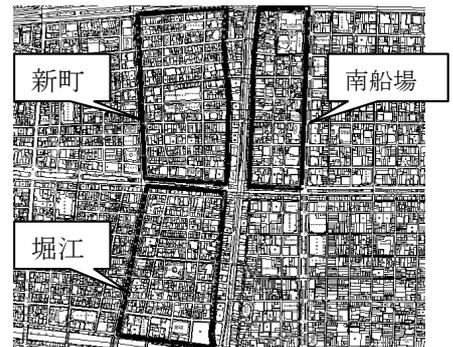
現在の大阪市の現状は、大阪市総合設計ガイドライン通りに計画が進められているかという疑問である。その原因の一つとして、オープンスペースの中でも中間領域に属するつなぎ空間の不整備が考えられる。本研究ではこのようなつなぎ空間に着目をした。

オープンスペースの確保は主に公園計画に基づき行われてきた。都市部においての緑のオープンスペースとしての公園は、良好な地域環境を形成するとともに、非常に多くの働きを持った根幹的施設であり、住民に欠かせないものとなっている。しかし、そこに着目するあまり、中間領域の整備が行き届いていないというのが現在の都市部の状況である。大阪の都市部には、つなぎ空間の整備ができていないせいで、快適な居住空間でなくなっている場所が多く存在している。

つなぎ空間が整備されていないことで、街の統一性がなくなり、街に与える影響は大きい。そこで、大阪を活性化するにあたって、大阪のどの地区を改善することが効率的に大阪の活性化に繋がるかを考慮し、対象地を決定する。その決定した対象地区におけるつなぎ空間の利用状況を把握することで、現在抱えている問題を明らかにする。その明らかになった問題を、対象地区の地域性を考慮し、空間の有効活用をすることで、対象地区の街の機能性を高める解決策を提案し、その提案を基にCG（アニメーション）で表現する。最終的に対象地区の活性化、そして大阪全体の活性化を目指す。

3. 対象地区の選定

近年、産業構造の転換や関西圏の経済的地盤の低下にともなって、空き床・空き地が発生しており、都心としての力に衰弱の傾向があることが指摘されている。このように、現在の都心としてのあり方を問題視されていることを考慮した上で、対象地区の選定にあたって、大阪を活性化するためには、大阪市の都心部の活性化が大阪全体の活性化になると考え、大阪市内を中心に選定しようと考えた。対象地区は新町、堀江、南船場とした。（図－1）この地区の新たな動きとしては、一部の地区に海外ブランドショップ、カフェ、ギャラリーといった個性的な店が集まってきており、街に新しいイメージを吹き込んでいる。また、総合設計制度によるビル建設で生み出された公開空地などの新しい時代の資源も存在している。



図－1 対象地区位置図

4. 対象地区の分析

分析方法として、はじめに、対象地区とした3地区（堀江地区、新町地区、南船場地区）の街の社会的問題、歴史を調べることで、おおまかな対象地の特徴を把握する。

次に地区の特徴を把握した上で、つなぎ空間の現地調査をする。現地調査の目的として、一つ目に、現地を実際に歩くことで、社会的に問題となっていることを確認し、把握する。さらに新たな問題があるかを調査する。二つ目に、現地調査で思った「有効活用されている空間」と、逆に「有効活用されていない空間」、また、その原因となっていると思われる点などを写真に撮る。三つ目に、つなぎ空間を含む現地にある空地の現在の利用状況を確認し、利用方法を分類する。

現地調査終了後、CAD（GISを含む）により現地調査で得たデータを基に、レイヤーで分類し整理をする。（図-2，3，4）さらに、レイヤーで分類したデータを基に、対象地区の現状を把握し、各地区の特徴を見出す。また、各地区を比較することで、それぞれの抱えている問題点を見出す。

最終的に、社会的背景、歴史的背景、現地調査で得た写真などのデータ、CAD（GISを含む）による数値データを基に、対象地区の活性化における問題点を総合的に判断する。

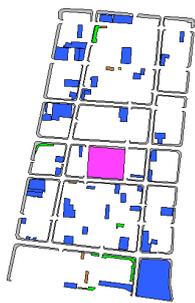


図-2 堀江地区



図-3 新町地区



図-4 南船場地区

5. 南船場地区活性化計画による3次元CGシミュレーションの作成

南船場地区活性化計画に向けて今回は特に、私達が特に注目してきたセットバックや、それに伴う凹凸の激しいつなぎ空間や、公開空地がある一つの通りを対象に提案・シミュレーションを行う。



図-5 つなぎ空間の連続



図-6 オープンカフェの設置



図-7 公開空地

6. 結果と今後に向けて

自主セットバックや看板の撤去など、つなぎ空間の連続性を考慮した改善案を用いた結果、歩行空間の確保をすることができた。壁面後退部において、オープンカフェや公園を設けたことで、街にゆとりをもたせることができた。現在の南船場でゆとりをもたせることは、最大の効果でもあり魅力でもある。これらのことから、街並みに対する影響として、機能面では、改善されたと考える。壁面後退部の有効利用した場所も、人に見る楽しみを与える場所となり、景観面でも改善されたと考える。

今後の課題としては、今回よりも範囲を広め、街全体を対象としてシミュレーションを行うことができれば、より良い活性化計画ができるであろう。また、さらに細かな分析をすることによって街の機能、景観が改善され、大阪市レベルの街の活性化の起爆剤となればと考える。

参考文献 大阪市住宅建築指導部：総合設計（公開空地整備）ガイドライン 2003